大好きな町

大石 美優［愛媛県］

西日本の記録的な大雨により町全体が茶色い泥水に浸かった。私は、ただただスマホを眺めることしかできなかった。自分が歩いていた道が消え、友達とご飯を食べていた店が消え、おいしい晩ごはんのための材料を買うスーパーが沈んだ。私は、ずっと夢の中にいる気分だった。

祖父と祖母が住んでいる家が床上浸水の被害にあった。私も少しの間住んでいた家だったのでとても悲しかった。水がひいたあと片づけに行くことになった。家は近所の方と一緒にあらかた片付いていた。

「これを機会に戸棚も整理しよう！」

と、祖母が言った。私と弟は祖母のコレクションがたくさん入った戸棚の中身を全て取り出すことにした。濡れて開きにくくなった引き戸を無理やりこじ開けると、中からたくさんのものが出てきた。多趣味な祖母は本や画材、裁縫道具、習字道具などいろんなものを持っていた。

「ばあちゃん、物が多いよ。」

そう言いながら取り出していると祖母が、取り出した物をひとつひとつ手に取ってエピソードを話してくれた。そのエピソードは全て家族に関するもので、中には私の父のエピソードもたくさんあった。父の卒業アルバムが出てきたときは三人で見入ってしまい、笑いが絶えなかった。

最後に畳をはがし終えて帰ろうとしていたとき、「二人が来てくれて本当に助かった。ありがとう。」と、言ってくれた。私は心の底から嬉しかった。自然と三人で笑っていた。

町を通っていてもたくさんの方々が活動している姿を目にする。しかしマイナスな表情をしている人を見かけない。みんなしんどくても会話をしながら笑っている。そんな光景を見て本当に胸が熱くなる。今はしんどい時かもしれないけれど、これを乗り越えた先には「もっと笑顔のあふれる明るい大洲市」があると私は信じている。